

花王のアプローチ

花王は法を遵守し、高い倫理観を持って公正・公平な購買活動を推進しています。持続的発展が可能な社会の実現をめざし、資源保護・環境保全や安全、人権などに配慮し、企業としての社会的責任を果たします。

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

製品の原材料調達において、乱開発による原産地の環境破壊、生物多様性の損失が大きな課題になっています。

また、原材料やサービス等を提供するサプライチェーンにおける労働者の人権の保護、安全・衛生管理、原産地の地域住民の強制移住、健康被害なども喫緊の課題になっています。

花王が提供する価値

花王の事業はパーム油や紙・パルプなどの自然資本に大きく依存しています。省資源、地球温暖化防止、生物多様性保全などの環境側面、安全・衛生、労働環境、人権などの社会側面に十分配慮し、持続可能な調達を実現することで、企業としての社会的責任を果たしていきます。

「2030年のありたい姿」の実現に関わるリスク

調達におけるリスクには、原材料等の安定調達に関わる供給リスクと社会課題に対して適切な対応を怠った場合に顕在化する可能性がある評判リスクがあります。

供給リスクに対してはBCPの策定等で対応していますが、近年評判リスク(社会面、環境面)への対応がより重要になっています。

「2030年のありたい姿」の実現に関わる機会

上記リスクに対して適切に対応していくために、社会面では花王人権方針に基づく人権デュー・ディリジェンスの実施、「調達先ガイドライン」に基づくサプライヤーのリスクアセスメント、環境面では「原材料調達ガイドライン」に基づいたパーム油、紙・パルプの調達を推進しています。それにより、消費者の共感を喚起し、サプライヤーと良好な関係が保たれ安定供給が図れるため、ひいては企業の成長と企業価値向上につながると考えています。

貢献するSDGs



方針

花王は「調達基本方針」に則った調達活動を具体的なものとするため、「調達先ガイドライン」および「原材料調達ガイドライン」を制定しています。

花王はサプライヤーを“よきモノづくり”に不可欠なパートナーと考え、「調達先ガイドライン」に基づき、調達活動に取り組んでいます。また、法令や社会規範の遵守、人権の擁護、安全衛生の確保、公正な取引等、社会的責任に配慮されているサプライヤーや、環境マネジメントシステムをはじめ、花王が配慮すべき環境項目にご協力いただけるサプライヤーからの調達を優先しています。さらに、環境に配慮した原材料や包装容器の調達を優先しています。

花王とサプライヤーとの間で締結する取引基本契約書においては、上記の環境・人権・労働等に関する条

持続可能で責任ある調達 103-1,103-2,103-3,404-2,414-2 花王のアプローチ

を明記しています。

また、地球温暖化、生物多様性の劣化などの環境問題、資源制約や人権などの課題を踏まえ、「原材料調達ガイドライン」に基づいた持続可能な調達に取り組んでいます。事業が自然資本に依存していることを認識し、パーム油や紙等の調達に関しては原産地での森林破壊ゼロを支持しています。中長期的には、原材料の徹底的な使用量削減や、藻類のような非可食バイオマス由来の原材料等への転換に取り組むとともに、グローバル化により顕在化してきた倫理的な課題にも配慮して、持続可能で責任ある調達を推進します。



→詳細は「調達先ガイドライン」
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/procurement/supplier-guidelines.html

→詳細は「原材料調達ガイドライン」
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/procurement/raw-materials-guidelines.html

体制

購買部門では、企画部サステナビリティグループとともに、購買部門サステナビリティ戦略部会(年5回開催)を設け、持続可能で責任ある調達を実行するための戦略を策定しています。

その戦略のもと、原料部および包材部は「原材料調達ガイドライン」に則った調達を進め、間接材部は文具・

事務用品などのグリーン購入、機器部は環境に対応した設備・機器の導入を推進しています。

購買部門の戦略および活動は経営会議への報告を通して、取締役会へ報告しています。

また、年1回グローバル購買会議(右記)を開催しています。

教育と浸透

従業員研修や啓発を実施(日本)

花王では、新たに購買部門に配属された従業員に対し、「公正・公平」「遵法・倫理」「社会的責任」などの購買基本姿勢について教育しています。教育を通じて国連グローバル・コンパクトやISO26000で求められている、人権・労働などグローバルな社会的課題についての認識を持つようにしています。

2018年は、新たに購買部門に配属された従業員9人に対し購買基本姿勢について教育しました。

検定受験の推進(日本)

購買部門の社員一人ひとりが社会や環境との関係を認識し、行動を変革するための教育として、環境社会検定試験[®](eco検定[®]*1)、ビジネスコンプライアンス検定[®]*2、ビジネス実務法務検定試験[®]*3の受験を推進しています。

2018年の部門在籍者の累計合格者はeco検定が77%、ビジネスコンプライアンス検定が69%、ビジネ

ス実務法務検定試験が73%でした。

eラーニングによる教育(グローバル)

購買部門全員を対象としたサステナビリティに関するeラーニングによる教育プログラムを構築しています。持続可能で責任ある調達活動に必要な知識の習得を目的とし、2019年より運用を開始します。2019年中の受講率100%をめざします。

グローバル購買会議(グローバル)

関係会社の購買担当マネージャーが出席するグローバル調達会議を年1回開催しています。この会議において、花王グループの調達方針や持続可能で責任ある調達について教育と確認を行なっています。

※1 eco検定[®]

環境と経済を両立させた「持続可能な社会」の促進をめざした検定試験。

※2 ビジネスコンプライアンス検定[®]

コンプライアンスを法令の背後にある「社会的要請に応えること」ととらえ、企業にとって重要な法令を体系的に理解するコンプライアンス・スキルの養成をめざした検定試験。

※3 ビジネス実務法務検定試験[®]

ビジネスに不可欠なコンプライアンス・法令遵守能力の基礎となる実践的な法律知識を身につけることを目的とした検定試験。

中長期目標と実績

2020年中期目標

1. 持続可能な原材料の調達

認証原材料の調達

花王は森林破壊ゼロに向けた取り組みとして、パーム油、紙・パルプについて2020年までの持続可能な原材料の調達への切り替えをめざしています。

パーム油・パーム核油の調達においては、RSPO※1に加盟して関連工場のSCCS※2認証取得と認証油の調達を進めるとともに、2020年までに、原産地の森林破壊ゼロの確認および原産地まで追跡可能なパーム油・パーム核油の全量調達をめざします。

紙とパルプの調達においては、2020年までに花王製品に使用する紙・パルプ、包装材料および事務用紙は、再生紙または持続可能性に配慮したものみの購入をめざすとし、特にパルプは2020年までに原料木材産出地の追跡可能なパルプのみの購入をめざします。

天然植物資源の持続可能な調達

天然植物資源の乱獲による枯渇や資源収奪の問題を認識し、原産地の自然環境やコミュニティに配慮しながら、調達ルートが多様化・変更や人工栽培品への切り替えに取り組んでいます。

2. 人権への取り組み

さまざまな人権問題のリスクに対応するため、2015年に「花王人権方針」を定めました。花王の活動に加えサプライヤーへも「調達先ガイドライン」に基づく人権のための行動を要請し、人権デュー・ディリジェンスを実施しています。

このリスクを評価するため、2014年に世界的な企業倫理情報共有プラットフォームであるSedexに加盟し、サプライヤーにも加盟を要請しています。2020年までにサプライヤーのSedex加盟率70%（日本：購入金額ベース）をめざします。

また、2017年よりSedexを活用したサプライヤーリスクアセスメントを進めています。

3. グリーン購入

文具・事務用品など間接材の購入においては、環境省が提唱するグリーン購入を推進するため、「グリーン購入基準」を定め、環境に配慮した物品を優先的に購入しています。

機器・設備の導入においても、LED照明の導入、電力のCO₂排出係数が小さい電力会社との契約など環境対応を推進しています。

※1 RSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil)

持続可能なパーム油の生産と利用を促進するための円卓会議
<https://www.rspo.org/>

※2 SCCS (Supply Chain Certification System)

生物多様性保全のための厳しい条件をクリアし、RSPOに認められた農園で収穫した持続可能なパーム油を使った製品を生産・販売し、消費者に届ける目的でつくられたサプライチェーンシステム

中長期目標を達成することにより期待できること

コスト低減あるいは収益拡大

NGO / NPOからの批判対応コストの低減、ブランドイメージの向上、社会的信用の向上

社会に及ぼす効果

原材料の調達を通じた社会のサステナビリティへの貢献

2018年の実績

実績

1. 持続可能な原材料の調達

認証原材料の調達

・パーム油・パーム核油の調達

サプライヤー情報によるパーム搾油工場までのトレーサビリティの確認: 購入量の約98%

第三者機関によるパーム核搾油工場の検証: 地域を代表する4工場

・紙・パルプの調達^{*1}

トレーサビリティの確認100%

うち、紙・パルプの認証品比率^{*2} 86% (2018年12月時点)

^{*1} 花王製品に使用する紙・パルプ(一部製品を除く)を対象とします。

^{*2} 2018年12月の認証品比率と2018年の年間調達量を基に算定しています。



→詳細はP143「具体的な取り組み: 持続可能なパーム油・パーム核油の調達に向けての取り組み」

→詳細はP145「具体的な取り組み: 持続可能な紙・パルプの調達に向けての取り組み」

・天然植物資源の持続可能な調達

化粧品・医薬部外品に使用しているグリチルリチン誘導体は、マメ科植物である甘草から製造されます。生物多様性の保全と持続可能な利用に努めるため、2016年から引き続き、自生甘草由来から栽培地が特定された栽培甘草由来のグリチルリチン誘導体への切り替えを進めています。

2. 人権への取り組み

Sedexによるアセスメントを2017年から実施しています。2018年はアセスメントの対象をグローバルに拡大し、また、新たな評価基準を定めました。

・ Sedexによるサプライヤーのリスクアセスメントでの総合評価(2018年9月時点): S評価24%、A評価40%



→詳細はP145「具体的な取り組み: サプライヤーのモニタリングにSedexを活用」

3. グリーン購入

2018年の「グリーン購入基準」達成率は87%でした。

実績に対する考察

パーム搾油工場までのトレーサビリティはほぼ目標に到達しつつあります。搾油工場まで追跡できていない誘導体については、RSPO認証原料を購入するなどの補完措置を講じます。

また、リスクアセスメントにより要観察と判定されたパーム搾油工場については、順次現地訪問などを進めていきます。

原産地(パーム農園)までのトレーサビリティの確認が大きな課題です。小規模農家を含むパーム農園は数が膨大で、そのトレーサビリティ確認は困難ですが、外部イニシアティブを活用する方法で検討を開始しました。

紙・パルプの原産地までのトレーサビリティはほぼ2020年目標に到達しました。引き続き小規模のサプライヤーに対して認証品の導入、サステナビリティの確認を働きかけます。

ステークホルダーとの協働

持続可能な調達

パーム油および紙・パルプの持続可能な調達を、認証品の購入とトレーサビリティの確認の2つの方法で進めています。認証パーム油および認証紙については、日本のサプライヤーにも認証取得を求め、調達を開始しました。

トレーサビリティの確認については、原材料サプライチェーン情報の第三者機関による検証およびリスクアセスメントを実施しています。

サプライヤーとの協働

花王は、Sedex、ベンダーサミット、品質向上会議、CSRセルフアセスメントのモニタリング、CDPサプライチェーンプログラム等さまざまな取り組みを通じて、サプライヤーとの連携を強化し、グローバルな調達の推進に取り組んでいます。

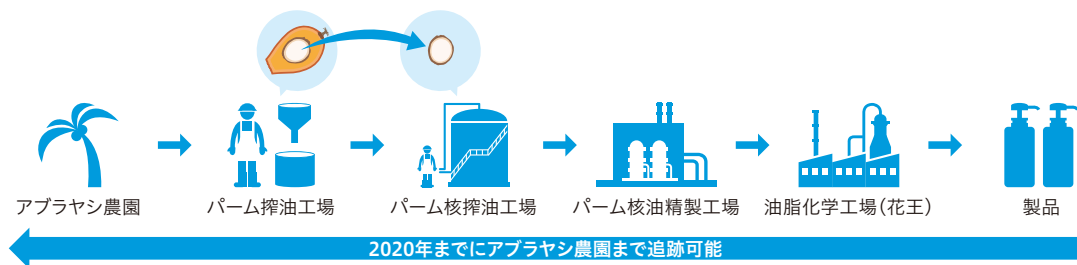
具体的な取り組み

持続可能なパーム油・パーム核油の調達に向けての取り組み

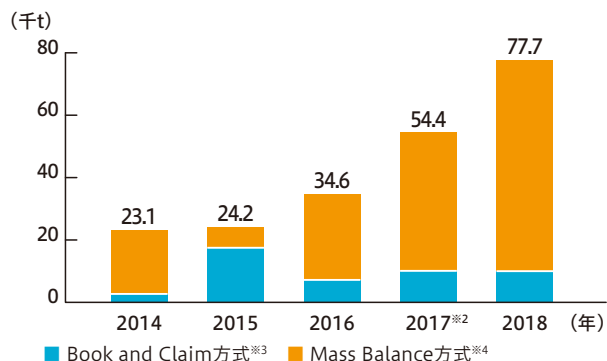
花王は、基本原料の一つであるパーム油・パーム核油の調達において「原材料調達ガイドライン」に基づいた持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。

また、RSPOのメンバーとして活動し、追跡可能なサプライチェーンの構築に努めています。

パーム油・パーム核油の調達



認証油購入実績^{※1} (花王グループ)



※1 パーム油・パーム核油およびその誘導体の合計
 ※2 一部データを見直し、2017年の数値を変更しています。
 ※3 Book and Claim方式
 RSPO認証のパーム油のクレジットを取引するシステム。RSPOにより認証された農園が生産、登録したパーム油の量に応じて発行された「認証クレジット」を購入することで、クレジットに応じた量の認証パーム油を購入したとみなすことができる。本方式では、農園での認証油の生産を促進することができる。
 ※4 Mass Balance方式
 RSPO認証パーム油と非認証パーム油が混じることが許された認証システム。

「持続可能なパーム油」の調達ガイドラインにおける目標と2018年実績

パーム油・パーム核油の調達において、生物多様性の保全への配慮と、森林破壊ゼロへの支持を表明し、4つの目標を掲げて取り組んでいます。

目標	2018年実績
① 2015年末までに、花王グループの消費者向け製品に使用するパーム油は、持続可能性に配慮した、ミル(搾油工場)まで原産地追跡可能なもののみを購入することをめざします。	トレーサビリティを確認したパーム核搾油工場をマッピングしウェブサイトで公開
② 2020年までに、農園(プランテーション)、サプライヤー(ミル、リファイナリー)および第三者機関との協働により、原産地の森林破壊ゼロを十分に確認します。私たちは、保護価値の高い(HCV ^{※1})森林、炭素貯蔵量の多い(HCS ^{※2})森林および泥炭湿地林の開発に加担しません。	2017年に実施した第三者機関によるリスクアセスメントにおいて要観察パーム搾油工場と判定された工場の現地調査: 2工場 5工場のサプライヤー情報の検証
③ 2020年までに、花王グループの消費者向け製品に使用するパーム油は、持続可能性に配慮した、農園まで原産地追跡可能なもののみを購入します。	サプライヤー情報によるパーム搾油工場までのトレーサビリティの確認: 購入量の約98% トレーサビリティを確認したパーム搾油工場をマッピングしウェブサイトで公開 第三者機関によるパーム核搾油工場の検証: 地域を代表する4工場 パーム搾油工場2工場へ供給する小規模農家についてBluenumbersのパイロット調査実施
④ 2020年までに、花王グループ工場のRSPO SCCS認証取得をめざし、花王グループの追跡可能なサプライチェーンの構築に努めます。	RSPO SCCS 認証取得数: 国内外のグループ工場およびオフィスの35サイト

※1 HCV(High Conservation Value)
 ※2 HCS(High Carbon Stock)

パーム核油のトレーサビリティ進捗

調査対象	活動内容	進捗						結果	
		2018	2018	(2018)	(2018)				
[4次サプライヤー] 小規模農家	トレーサビリティ確認手法の探索	2018	2018	(2018)	(2018)			2018: パーム搾油工場2工場へ供給する小規模農家についてBluenumberのパイロット調査実施	
[3次サプライヤー] パーム搾油工場(862工場)	ハイリスクミルの現地調査	2017 2018	2018	(2018)	(2018)			2017: 1工場の現地調査実施⇒森林破壊は問題なし。マネジメントシステムの改善を要請 2018: 2工場の現地調査実施 (2018): 5工場のサプライヤー情報を検証	
	リスクマッピング ハイリスクミルの特定	2016	2017	2017	2017		2017	2016: ハイリスクミル6工場を特定 2017: ハイリスクミル83工場を特定	
[2次サプライヤー] パーム核搾油工場(90工場)	パーム搾油工場情報の検証	2017	2017	2017 2018	2017	2017		2017: 地域を代表するパーム核搾油工場7工場の第三者検証実施 2018: 地域を代表するパーム核搾油工場4工場の第三者検証実施	
[1次サプライヤー] パーム核油精製工場(7社)	パーム核搾油工場情報の検証	2016	2016	2016	2017	2017		1次サプライヤーの第三者検証実施	
		A社	B社	C社	D社	E社	F社	G社	2017: パーム核搾油工場、パーム搾油工場情報の収集

小規模パーム農家までのトレーサビリティ

パーム油のトレーサビリティと透明性の確立をめざして2017年、ブルーナンバー(Bluenumber)^{※1}に参画しました。パーム油において、農園、パーム搾油工場、パーム核搾油工場、精製工場に自身や労働者の属性、生産拠点、生産物、活動内容に関する情報の登録を働きかけることにより、トレーサビリティの確立をめざしています。2018年はパイロットを実施し、しくみの有用性を確認しましたが、一方、小規模農家への展開に課題があることもわかりました。また、2018年9月にSUSTAIN^{※2}に創設メンバーとして参画しました。

これらのしくみを小規模農家までのトレーサビリティに活用するべく、運営母体であるNPO/NGOや他の参画企業と協働していきます。

※1 Bluenumber
「国連持続可能な開発サミット」において2015年9月29日に発足。労働者・生産者・地方の農村地域に住む人々のデジタル経済への参画を促す。

※2 SUSTAIN(Sustainability Assurance & Innovation Alliance)
ブロックチェーン技術を活用し、パーム油関係者が協働することによりサプライチェーン情報の共有をめざすイニシアティブ。

小規模パーム農園との対話

経済人コー円卓会議日本委員会(CRT日本委員会)がマレーシアとインドネシアで開催したステークホルダーエンゲージメント(SHE)プログラムに参加し、現地の小規模パーム農園を訪問して農園主等との対話を行いました。また、インドネシアでは、環境や人権課題に取り組む現地NGOとの対話集会にも参加し、パーム農園の状況、課題とその解決に取り組む活動等の知見を得ました。花王は持続可能なパーム油サプライチェーンの確立に向けた努力を続けており、小規模パーム農園における課題に向き合うため今後も対話を継続し、ステークホルダーとともにその課題の解決に取り組んでいきます。



→詳細は「サステナビリティピックス:花王 持続可能なパーム油サプライチェーンの確立に向け、小規模パーム農園との対話を実施」
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics/sustainability-20180911-001/

IOIグループのRSPO認証停止に対する対応

大手パーム油サプライヤーのIOIグループが、インドネシアのKetapangにおける森林開発に対する苦情により2016年にRSPOから認証を停止されたことに対し、花王はRSPOから任命された第三者による客観的な検証により改善が確認されるまで、IOIグループからのRSPO認証品の購入を停止していました。花王は、認証品の購入停止中もIOIグループとの対話を重ね、改善経過を確認しました。また、他の外部団体からIOIグループのサプライチェーンの透明性が高く評価されるに至ったことも考慮し、IOIグループからの認証品の購入を再開しました。また、RSPOも苦情パネル(審議会)による処理が終了したことを報告しています。

持続可能な紙・パルプの調達に向けての取り組み

花王は、紙・パルプの調達において「原材料調達ガイドライン」に基づいた持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。

FSC 認証紙の導入については、2013年より自社製品の容器包装へのFSC 認証紙の導入を開始し、2016年には日本で初めてFSC 認証を受けた段ボールを導入しました。

2018年12月時点の紙・パルプ認証品比率※は86% (FSC 認証、PEFC 認証等)となりました。

また、2018年7月には、「FSC 認証材の調達宣言」を日本企業6社・団体と共同で発表しました。

※ 2018年12月の認証品比率と2018年の年間調達量を基に算定しています。花王製品に使用する紙・パルプ(一部製品を除く)を対象とします。



→詳細は「ニュースリリース:「FSC 認証材の調達宣言」を日本企業6社と共同で発表」
www.kao.com/jp/corporate/news/2018/20180807-001/

「持続可能な紙・パルプ」の調達ガイドラインにおける目標と2018年実績

紙・パルプの調達において、生物多様性の保全への配慮と、森林破壊ゼロへの支持を表明しています。

目標	2018年実績	2020年目標に対する達成度(%)
2020年までに、花王製品に使用する紙・パルプ、包装材料および事務用紙は、再生紙、または持続可能性に配慮したのもののみを購入します。古紙パルプ以外のパルプ(バージンパルプ)を使用する場合は、原料木材産出地の追跡可能なパルプのみを購入し、サプライヤーおよび第三者機関との協働により、原料木材の産出地の森林破壊ゼロを十分に確認します。	追跡可能な紙・パルプ:100% (うち、認証品86%) 2018年7月に「FSC 認証材の調達宣言」を日本企業6社・団体と共同で発表	100% —

サプライヤーのモニタリングに Sedex を活用

環境、安全、法令と社会規範の遵守、人権・労働問題の取り組みなどを定めた「調達先ガイドライン」の遵守状況の確認、リスクアセスメントに Sedex を活用しています。サプライヤーに対して Sedex への加盟、質問への回答、データへのアクセス権の設定の要請を進めています。

2018年末時点で、グローバルで1,474サイトとのアクセス権が設定されました。日本では503サイトとのアクセス権が設定され、購入金額の62%をカバーしています。2018年は、アクセス権が設定されたサプライ

ヤー(2018年9月時点)に対して、Sedex アセスメントツールによるリスクアセスメントを実施しました。

また、このアセスメント結果をサプライヤーにフィードバックしました。総合評価が“A”以上となるように、改善を要する項目について見直しを求めています。

特に、総合評価が“B”で、Sedex リスク評価が“High”のサプライヤーには、訪問して課題を共有化するとともに、改善に向けた取り組みの要請を行ないました。

Sedex への加盟が困難なサプライヤーに対しては、Sedex を補完する評価ツールとして、独自の調査票も活用しています。法令遵守・人権・取引慣行等の社会的責任の項目と汚染防止(大気、水等)を含めた環境方針・環境目標・各種管理等の環境保全の項目を全面改訂し、2018年から一部運用を開始しています。

新規サプライヤーの採用にあたっては、同様のアセスメントを実施しています。

2018年のSedexによるサプライヤーのリスクアセスメント結果

総合評価	SAQ 回答率※1	Sedex リスク評価※2	花王評価	割合
S	80%以上	Low	優	24%
A	80%以上	Low	良	40%
B	80%以上	Medium or High	要改善	14%
C※3	80%未満	—	要回答	12%
—※4	—	—	—	10%

※1 Sedexのサプライヤー自己評価アンケートに対する回答率
 ※2 Sedexアセスメントツールによる評価で、リスク発生の可能性をLow、Medium、Highの3段階で評価
 ※3 未回答のSAQはリスクHighと評価されるため、SAQ回答率が80%未満の場合は一律“C”評価
 ※4 回答結果にアクセスできないため未評価

花王ベンダーサミットを実施

花王では、国内外で毎年サプライヤーとの情報共有・意見交換の場として「お取引先懇談会」を開催し、年度ごとにテーマを決めてコミュニケーションを図っています。

2018年の日本のベンダーサミットにおいては、持続可能で責任ある調達の取り組みであるCDPサプライチェーンプログラム※1への積極的な協力およびSedexへの加盟を依頼しました。また、2016年からお取引先表彰制度を開始しており、「品質」「価格」「納入」「情報提供」「経営・サステナビリティ」の観点で優秀なお取引先を表彰しました。

2018年は、経済人コー円卓会議の石田寛氏に「ビジネスと人権」と題し企業をとりまく環境の変化、CSRに取り組む意義等について講演していただきました。

ベンダーサミット出席会社数 (単位: 社)

	国内開催	海外開催	合計
2014年	183	233	416
2015年	214	285	499
2016年	246	279	525
2017年	245	258	503
2018年	243	230	473

CDPサプライチェーン

花王は、資源制約、生物多様性の劣化や地球温暖化などの環境問題、人権問題などを踏まえ、持続可能な開発におけるリスクを認識し、持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。これらの取り組みは、サプライチェーン全体で管理することが重要であり、「気候変動」および「水」についてCDPサプライチェーンプログラム※1に参加し、主要なサプライヤーに情報開示を依頼しています。2018年から新たに「森林」に関する情報開示の依頼も開始し、海外関係会社のサプライヤーにも拡大しました。また、日本ではサプライヤー向け説明会を開催し、153社が参加しました。2018年の回答率は気候変動が78%、水が76%、森林が91%でした。

また、森林資源に関わる項目はCDP フォレスト※2に回答することを通じ、リスク評価を行なっています。

※1 CDPサプライチェーンプログラム

CDPとは、機関投資家の運営による、ロンドンに本部を置く非営利団体であり、気候変動、水、森林に関する情報開示を企業等に求める活動等を行なっている。サプライチェーンプログラムとは、メンバー企業が自らのサプライヤーに対し、気候変動・水・森林に関わる情報開示をCDPプラットフォームを用いて求める取り組み。

※2 CDP フォレスト

CDPによる森林資源の管理・利用状況等の情報開示を企業に求める取り組み。

サプライヤーの満足度を調査

花王は、自身が公正・公平な調達活動を行なっているかを確認するため、「お取引先満足度調査」を3年ごとに実施しています。直近では、2016年に調査を実施し、「発注先選定」「品質」「発注」「接客」「コミュニケーション」等についてお取引先より貴重なご意見をいただきました。「発注」においては、急な納期・数量の変更依頼や提案・相談に対する対応等の課題が確認されました。これらへの対応として、購買部門は「コンプライアンス通報・相談窓口」の周知、SCM部門・情報システム部門と連携した新たな需給計画プロセスの構築を現在進めています。

公衆環境研究センター(IPE)からのメッセージ



MA Jun

Director
Institute of Public &
Environmental Affairs (IPE)

「花王サステナビリティ データブック2018」にて、国連の持続可能な開発目標(SDGs)を事業活動全体に統合した花王の試みを高く評価しています。

花王の取り組みの特徴は、パーム油、パルプ、紙の持続可能な原材料調達に見られるような、製品開発、調達、サステナビリティに関わる部門の協力関係です。具体的には、森林破壊とそれによる気候変動への影響を減らすべく、2020年までにこれらの原材料の100%を、追跡可能で持続可能性に配慮した供給源から調達することをめざして注力しています。たとえば、パーム油の調達においては、アブラヤシ農園から搾油工場、精製工場、油脂化学工場まで、調達のあらゆる段階を管理する詳細なトレーサビリティ体制のもとで行なわれています。

このような詳細な原材料の追跡が、社会に責任ある花王の事業の取り組みを支えています。しかし、SDGsにおける「つくる責任」を達成するためには、そのトレーサ

ビリティと原材料調達の取り組みを現在の範囲にとどまらず拡大していく必要があります。

それには、バリューチェーンのすべての段階を含む包括的なサプライヤーリストの作成が求められます。上流のサプライチェーンをマッピングすることで、環境への影響が大きいサプライヤーを特定し、そのサプライヤーが環境に関するコンプライアンスに違反し、花王の事業にリスクを及ぼさないかを評価できます。この分析により、優先すべき分野への対応や現場での問題が発生した際の対応を、効率的に進めることができます。

花王は資源消費への対策として、水の使用量を最小限に抑える調査や、生産段階や容器包装の廃棄物を削減するための協業を通じ、有意義なサプライヤーエンゲージメントを実施しています。また、IPEのデータベースを使用して、中国のサプライヤーをスクリーニングし、法的基準に違反している工場に是正措置を取るよう要請しました。これまでの活動の成功をふまえると、このサプライヤーエンゲージメントのプロセスを拡大して、あらゆる汚染やコンプライアンス違反を項目に加えれば、現在持っている環境課題をサプライチェーン全体から取り除くことができるでしょう。

また、長期的なパートナーシップのためには、是正を通じてサプライヤーをサポートするための研修の開催や、環境パフォーマンスの改善に対するインセンティブの提供が推奨されます。

PRTR法のもと、花王は排気や廃水、固形廃棄物中の汚染物質の使用および移動状況を文書化した化学物質排出移動量届出を進んで提出することで、徹底した環境意識を示しています。この測定と開示の実施を拡大し、日本以外のサプライヤーにおいても実施すれば、消費者や投資家はSDGsに貢献する花王の社会的責任に対して、深い信頼を寄せるでしょう。さらに、このサプライチェーンのデータを追跡・公開することで、大部分が生産段階に由来する、グループ全体の環境フットプリントの前年比での削減を裏付けることができます。

花王は、間違いなく家庭用品およびパーソナルケア業界の環境リーダーです。これらの基礎的な努力があるからこそ、上記の提案は、高度なサプライチェーンマネジメントと高い透明性をめざしたものになっています。今後は、サプライチェーンマネジメントへのさらなる注力、持続可能な調達の拡大(すべての調達段階および取引先企業への拡大)、規制遵守に向けたサプライヤーとの協力、情報開示による企業の説明責任の強化が望まれます。

花王は業界リーダーとして、業界全体に影響を与えることができる独自の立場にあります。この範囲を日本以外へも拡大し、消費者、投資家、その他ステークホルダーに、またサプライチェーンの上流から下流まで、持続可能な調達の意義を伝えていくことで、世界の企業活動を変え、持続可能な開発を実践していくことができるでしょう。